

重点戦略課題②

スポーツの魅力あふれる街の実現

市民生活の姿

市民のライフスタイルに合わせた、誰もが、いつでも、どこでも利用できる多様なスポーツ環境が、地域スポーツクラブをはじめ整っています。

札幌らしいスポーツ文化といえるウインタースポーツの振興により、誰もが冬に体を動かし、健康づくりや仲間づくりなど多様な楽しみを持つことで、冬の暮らしがゆたかになっています。

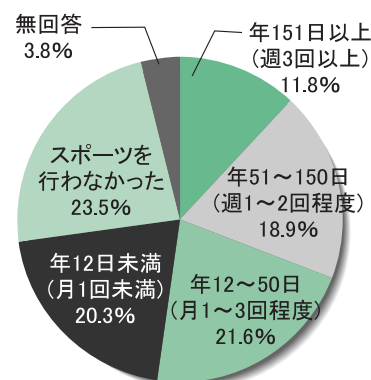
プロスポーツをはじめとしたトップスポーツ³クラブを地域ぐるみで支えることで、スポーツ活動のすそ野が広がり、地域からトップ選手が生まれています。

現状と課題

コミュニティスポーツの基盤づくり

充実した自由時間の実現や健康・生きがいづくりなどから、市民のスポーツへの志向が高まり、競技スポーツに加えてパークゴルフなどのいわゆるニュースポーツ⁴に取り組む人々が増え、スポーツが身近なものになってきています。また、体育館やグラウンドを利用した家族のスポーツ活動は、アウトドア活動などと比べて少なくなっています。そこで、スポーツ活動へのニーズの多様化や新たなスポーツ観が生まれている中で、生涯スポーツ⁵、コミュニティスポーツ⁶の基盤となり競技力の向上にもつながるような、総合型地域スポーツクラブ⁷などのしくみづくりが求められています。

●この1年間にスポーツを行った日数



〈資料〉札幌市「スポーツ環境意識調査」(平成15年)

³ トップスポーツ さまざまなスポーツ種目において、プロ選手やオリンピック出場選手など高度な競技力を有する者が競技する領域のこと。

⁴ ニュースポーツ 体力、技術、性別、年齢に左右されず、誰もが気軽に楽しめるとともに、ルールに弾力性があるなどの特長を持ち、近年になってわが国で考案され、あるいは諸外国から導入された比較的新しいスポーツ種目の総称。

⁵ 生涯スポーツ 誰もが生涯の各時期にわたって、それぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも、どこでも、主体的にスポーツに親しむこと。

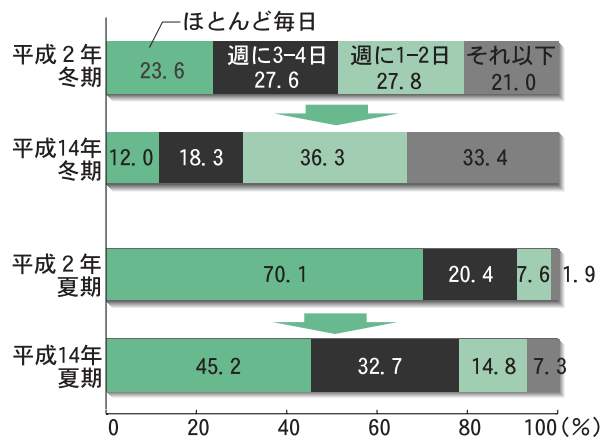
⁶ コミュニティスポーツ 地域や職場というような身近な生活環境の中で展開される多様なスポーツ活動。

⁷ 総合型地域スポーツクラブ 主にヨーロッパ諸国などに見られる地域スポーツクラブの形態で、地域において、子どもから高齢者までさまざまなスポーツを愛好する人々が参加できる、総合的なスポーツクラブのこと。

ウインタースポーツや屋外活動の推進

子どもたちのスポーツ活動の機会が減少するとともに、身近な外遊びの場が不足し、特に冬のスポーツ活動が停滞傾向にあることが、体力・運動能力の低下とともに問題となっています。そこで、ウインタースポーツに重点的に力を入れるとともに、健康づくり運動から発展して「身体（からだ）づくり」をライフスタイルに取り込むために、地域のスポーツ施設や医療機関との連携を進める必要があります。

●戸外遊びの頻度（再掲）

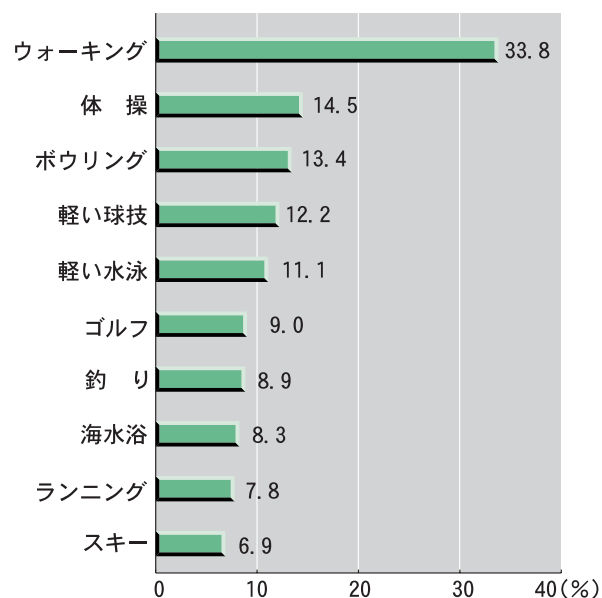


注：平成2年のデータは、札幌市の調査によるものである。
 〈資料〉北海道開発局「小学生の冬期公園利用意識の変化（寒冷地技術シンポジウム2002）」

トップスポーツの活用とスポーツ活動の広がり

不況などに伴い企業運動部が休廃部し、学校段階で育った優秀な選手たちの受け皿となる活動場所が不足している状況は、競技力の向上に大きな影響を与えています。また、スポーツ観戦を楽しむことやスポーツイベント運営を手伝うなど、「見る」「支える」という形での参加もスポーツ活動としてとらえるようになっており、スポーツへのかかわり方に広がりが生まれています。さらに、身近にプロスポーツクラブがあることは、その活躍がまちの誇りや元気の源となるなど市民の財産となっています。そこで、スポーツ振興の観点からも効果的な、地域密着のトップスポーツを活用したまちづくりを進める必要があります。

●この1年間に行った運動・スポーツの種目



注：対象は20歳以上の者で、複数回答である。
 〈資料〉内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」（平成12年）

各主体の主な役割

市 民

- 家庭でスポーツを楽しむ環境づくり
- スポーツクラブ、イベントへの参加 など

企業・プロスポーツクラブ等

- 地域に根ざしたスポーツ活動の推進
- 企業チームやプロの選手による地域への指導・交流
- 運動施設の空き時間開放 など



NPO・競技団体・体育振興会等地域のスポーツ団体

- 地域スポーツクラブづくりに向けた活動の多種目化、団体相互の交流活動
- 家族や初心者対象の教室の実施 など

行 政

- スポーツ活動の総合的な情報提供、指導者派遣のしくみづくりや調整
- スポーツ振興施策が円滑に進むための調整（コーディネート） など

施策と事業

施策の基本方針

市民の誰もが身近でスポーツを楽しめる環境づくりを進めるとともに、地域住民が主体となった地域スポーツクラブを育成するしくみを検討します。また、市民と協働で総合的なスポーツ情報を提供するとともに、人材確保のしくみづくりや自然に親しむスポーツ活動の実践を進めていきます。

さらに、スポーツにおけるさっぽろブランドを高めるため、札幌ならではの冬のスポーツの新たな楽しみ方を発信するとともに、地域に根ざしたプロスポーツを市民と共に育てます。

重点戦略課題②

スポーツの魅力あふれる街の実現

施策 1 身近でスポーツを楽しむ環境づくり

施策 2 スポーツ情報の提供や人材確保のしくみづくり

施策 3 トップスポーツの積極的活用

施策 4 ウィンタースポーツの活性化【再掲】

施策 5 健康づくり運動とスポーツ振興の連携

施策 1 身近でスポーツを楽しむ環境づくり

市民の誰もが、いつでも、どこでもスポーツができるために、学校開放の充実など利用しやすいスポーツ環境を整えるとともに、スポーツの場を拡大します。また、地域でのスポーツ活動の担い手である団体の連携・融合を進め、それぞれの活動拠点となっている区体育館や学校開放などの施設を一体的に活用し、一つの地域スポーツクラブとするなど、地域住民が主体となった地域スポーツクラブを育成するしくみを検討します。

事業名	事業内容	事業費	備考
学校体育施設開放の充実	身近でスポーツを楽しむ環境をより一層充実するため、小・中学校の体育施設について新規開放を進めるとともに、冬期における暖房の利便性の向上を図ります。	35百万円	●新規開放11校 (資生館小、上篠路中、篠路西中、平岡中ほか) ●体育館の開放校数 283校⇒291校 ※都心部4小学校の統合により3校減
厚別温水プール移転改築事業	老朽化が著しい厚別温水プールを移転改築し、車いす対応やエレベーター設置など利用形態の多様化に対応できるような機能を整備します。	708百万円	●16年10月開館
区体育館整備事業	施設の老朽化に伴い、全面的な機能の保全やエレベーターの設置などを行い、施設の延命化と利便性の向上を図ります。	856百万円	●東区体育館 ●北区体育館

事業名	事業内容	事業費	備考
サッカー場整備 用地取得	東雁来第2土地区画整理事業用地内に、民間団体がワールドカップサッカーの剰余金による助成を活用し、サッカー場などを整備するための用地を取得します。	1,653百万円	●サッカー場 2面
2002 FIFA ワールドカップ™ 記念事業 (開催地スタジアム 利活用事業)	ワールドカップサッカーの剰余金による助成を活用して、開催スタジアムである札幌ドームで行われるサッカー関連イベントに対して補助を行います。	58百万円	
市民運動広場整備 事業	子どもや家族を主体としたスポーツ活動の環境づくりを目指し、北区新琴似に多目的・平面系の大規模な市民運動広場を整備するための検討を行います。	32百万円	
地域スポーツクラブ 育成支援事業 【再掲】	札幌らしい地域スポーツクラブのあり方を検討するとともに、地域が主体となったスポーツクラブの運営に必要な情報提供機能の強化を図ります。	1百万円	

施策 2 スポーツ情報の提供や人材確保のしくみづくり

市民のスポーツ活動へのかかわり方が多様化することで、求められる情報も多岐にわたってくるため、民間の情報を含めた総合的な情報発信を市民と協働して進めます。また、「スポーツ人材バンク⁸」などの登録制度を設け、要望に応じて人材を派遣するしくみづくりや地域での指導者育成・活用の支援を進めます。

事業名	事業内容	事業費	備考
地域スポーツクラブ 育成支援事業 【再掲】	札幌らしい地域スポーツクラブのあり方を検討するとともに、地域が主体となったスポーツクラブの運営に必要な情報提供機能の強化を図ります。	1百万円	

⁸ スポーツ人材バンク スポーツ技術の指導者のほか、スポーツ・運動のきっかけづくりや楽しさを伝える人、スポーツイベントのボランティアなど、スポーツ活動にかかわる多様な人の情報を集め、地域スポーツクラブなどで活用できるようにすること。

事業名	事業内容	事業費	備考
トップアスリートの積極活用	トップスポーツと市民が身近に接する機会を提供するとともに、トップアスリート ⁹ を地域の求めに応じて指導者として派遣するしくみの構築を目指します。	4百万円	

施策 3 トップスポーツの積極的活用

コンサドーレ札幌などのプロスポーツクラブが地域に密着した普及・育成活動を行う場合に、施設・人材などの資源の効果的な活用・集積を進めていきます。

事業名	事業内容	事業費	備考
ファイターズ屋内練習場市民開放事業	北海道日本ハムファイターズの屋内練習場の少年野球を中心とした市民開放を促進するため、施設を借り上げて運営・管理を行うNPO法人に対して補助を行います。	15百万円	
トップアスリートの積極活用【再掲】	トップスポーツと市民が身近に接する機会を提供するとともに、トップアスリート ⁹ を地域の求めに応じて指導者として派遣するしくみの構築を目指します。	4百万円	

⁹ トップアスリート 高度な競技力を有する運動選手。

施策 4 ウィンタースポーツの活性化【再掲】

札幌ならではの特性を活かして、自然と親しむスポーツ活動を推進するとともに、ウィンタースポーツを重点スポーツとして位置づけ、調査・研究を進めます。さらに、「2007ノルディックスキー世界選手権大会」を市民ぐるみで盛り立てるなど、ウィンタースポーツへの関心を高め活性化するための取り組みを進めます。

事業名	事業内容	事業費	備考
2007年FIS ノルディックスキー 世界選手権札幌大会 の開催	平成19年（2007年）に札幌で開催するFISノルディックスキー世界選手権大会に向けて白旗山競技場および宮の森ジャンプ競技場の整備を行うとともに、準備・開催経費に対して補助を行います。	5,384百万円	●本大会 19年2月22日～3月4日
ウィンタースポーツ フェスタ in 大倉山	大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用し、子どもを中心に市民や観光客が集う冬の屋外スポーツ・レクリエーションの場として、市民と協働で展開するとともに観光資源として札幌をPRします。	5百万円	
ウィンタースポーツ 振興事業	ウィンタースポーツの活性化を図るため、地域の取り組み状況などの調査を行うとともに、身近にウィンタースポーツに親しむことができるよう、地域レベルでの活動を推進します。	3百万円	

施策 5 健康づくり運動とスポーツ振興の連携

健康づくり運動からさらに発展し、市民のライフスタイルに「身体（からだ）づくり」が定着するような取り組みをスポーツ施設や保健・医療機関と連携して進めます。

事業名	事業内容	事業費	備考
さつぽろスポーツ キャラバン隊 【再掲】	市民に身近な地域密着型のレクリエーションスポーツの普及・振興を図るため、地域に出向いてスポーツプログラムや健康づくりプログラムなどを提供します。	10百万円	

成果指標

	現状値	目標値
週に1回以上スポーツをする人の割合（成人）	30.7% (H15)	40% (H18)
直接スポーツ観戦をする人の割合	41.8% (H15)	50% (H18)
スポーツボランティアの経験がある人の割合	9.1% (H15)	20% (H18)